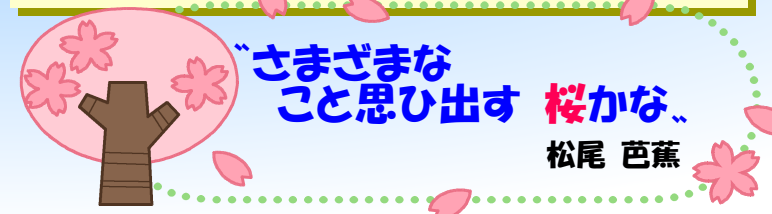


7月(文月)の行事予定

SC：スクールカウンセラー在校日 午前 9:00-12:00
午後 13:30-16:30
心：心の相談員在校日 9:30-14:30

日	曜	行 事 予 定	給食	児童会関係	SC	心
1	木	安全点検日	○ 2年担当		0前	○
2	金	B日課	○			
3	土					
4	日					
5	月	個人懇談週間① 図書返本閲覧のみ(～7/9)	○			○
6	火	ALT563	○ 2年担当			
7	水	B日課 個人懇談週間② 外国語(低)	○			
8	木	B日課 個人懇談週間③	○			○
9	金	個人懇談週間④ ALT34	○			
10	土					
11	日					
12	月	教材費・PTA会費・給食費再振替日	○	児童委員会 選挙管理委員会		○
13	火	ALT463	○		0後	
14	水	C日課 声かけ運動	○			
15	木	ケータイ・スマホ教室(5・6年)	○			○
16	金	4年バス見学(浄水場等) ALT65 PTA役員会	○			
17	土					
18	日					
19	月	クラブ② 夏休み図書貸出(低)	○			○
20	火	夏休み図書貸出(中) ALT345	○			
21	水	B日課 全校集会 大掃除(放課後) 夏休み図書貸出(高) 声かけ運動	○			
22	木	海の日 夏季休業開始(～8/16)				
23	金	スポーツの日				
24	土					
25	日					
26	月					
27	火	給食費振替日				
28	水					
29	木					
30	金					
31	土					

さくらぎ



学校だより No.4

令和3年06月29日発行

千歳市立桜木小学校

〒066-0072 千歳市自由ヶ丘7丁目1-1

TEL 0123-22-3301 FAX 0123-22-3302

URL: <https://chitose-edu.jp/sakuragi-e/>



コロナ禍でも「対話的な学習」の重視を

【校長】

近 藤 弘 隆

令和3年もあっという間に6カ月が過ぎて折り返しの時期となりました。

1年の終わり、12月31日は大晦日(年越)として定着している言葉ですが、それと共に日本では古くから、旧暦6月晦日(夏越)は、大晦日と共に新しい季節に入る物忌(もののいみ)の日とされています。半年分の汚れを落とし、この後の半年の健康と厄除けを祈願する「夏越の祓」は、新暦になった現在でも6月30日頃に日本各地の神社で行われている伝統行事であり、12月末の「年越の祓」と対になる大切な節目の行事とされています。「茅の輪くぐり」という、茅(ちがや)という草で編んだ大きな輪をくぐることによって心身を清めて災厄を祓い無病息災を祈願する儀式、人形(ひとがた)と言う人の形を模した紙の形代を川に流したりお焚き上げしたりして厄を落とす儀式やお清めのために人が直接川や海に入る儀式を「夏越の祓い」に行う地方もあるようです。

ちょうど緊急事態宣言が解除された時期と「夏越の祓い」の時期が重なりましたので、この後の半年、これ以上学校の教育活動に影響が出ないように感染状況の落ち着きを祈りたいと思います。

さて前段が長くなりましたが、この「夏越の祓い」のことは、私が御朱印集めをするために神社を訪問させていただいた際に、宮司さんから伺って初めて知ったことでした。たくさんの神社やお寺を訪問する中で、宮司さんや住職さんから「夏越の祓い」以外にも、神社仏閣の歴史や文化などについて、いろいろなお話を聞かせてもらいました。

その道の専門の方と対話することで、いろいろなことを学ばせてもらえるのは当然のことで、学校でもコロナ禍で制約がある中でも、これまで同様に様々な人から(外部人材等)学べる機会を大切にしていきたいと思っています。また現行の学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が重要視されていますが、この「対話的な学習」とは、単に外部講師を招いて授業をすることではありません。学校の学習活動では、上記した専門家も含めた地域の人との対話の他に、本などの資料も含めた先哲(先人)の考え方に触れることや当然学年や学級の子ども同士の間でも「対話的な学習」に含まれています。また、ただ話し合いをするだけでなく、子ども同士で協働(協力して共に学習を進める)ことも「対話的な学習」に含まれています。そして、この「対話的な学習」中で新しく出会った知識や知恵・価値観・ものの見方や考え方などによって、新たな気づきや学びが得られ、その後の自分の考え方や視野が広がって、子どもたちの理解力が高まっていく(「深い学び」につながる)のではないのでしょうか。

この考えのもと、学校では、

- 「対話」する必然性のある学習課題の設定
- 学習内容(ねらい)等に応じた学習形態の工夫(個人・ペア・小グループ・全体)
- 話を聞き合える関係性(親和的な学級)の構築
- ICT等、思考を深めるツールの活用

等を視点として授業改善を行っています。学習形態については、これも新型コロナウイルスの影響で距離や時間の制限等を考慮しなければなりませんが、コロナ禍でも「対話的な学習」を重視していきたいと思っています。また、同じように重要視されている「主体的な学習」の視点でも授業改善を進めているところです。

今年度桜木小学校では、目指す教師像のひとつとして「常に自らの指導力・授業力を高める教師」を挙げていますので、これからも子どもたちに確かな学力を身につけられるように、全教職員で日々の授業改善に取り組んでいきたいと思っています。

ふみ づき
文 月

短冊に歌や字を書く七夕の「文披月（ふみひろげづき）」から。
 稲の穂が実る月、「稻含月（ほふみづき）」からという説もある。

全国学力・学習状況調査を実施しました

5月27日（木）、6年生において、「令和3年度の全国学力・学習状況調査」を実施いたしました。「国語」「算数」の二教科と、生活や学習のことに関する「児童質問紙」の調査が実施され、6年生は、日頃学んできたことを発揮できるよう、真剣に答案に向き合っていました。学校では、自校採点や分析を行い、今後の指導に生かしていきます。

体の動かし方を学ぶことで記録を伸ばす

6月に実施が予定されていた運動会は、非常事態宣言の発出により、延期となりましたが、この日は爽やかな初夏の青空の下、4年生がソフトボール投げを行いました。

まず、投げ方や角度、向きについての説明があった後、先生が手本を示しボールを投げると、子どもたちから歓声が。その後、子どもたちが交代で投げ、距離を測ります。フォームを変え距離を伸ばした児童も見られました。

学校前花壇に花が植えられました



桜木小学校の校門横にある花壇に、花の苗が植えられました。5～6月は非常事態宣言が発出され、新型コロナウイルス感染防止対策が求められたため、職員での作業となりました。色とりどりに咲いている花を眺めていると、張り詰めた中にも、穏やかな気持ちになれるような気がします。

自転車は正しく安全に乗りましょう

子どもたちは、自転車を利用することも多いのではないかと思います。自転車は便利な乗り物ですが、車の仲間です。**きまりを守り正しく乗らないと大きなケガや事故につながります。**ご家庭でもご指導をお願いいたします。

□自転車は、車道が原則ですが、子ども（13歳未満）は、歩道を通ることが認められています。
 □歩道は、歩行者が優先です。
 □車道を通るときは、左側を走行します。

□二人乗りはいけません。
 □横にならんで走ってはいけません。
 □信号は必ず守りましょう。
 □交差点では、左右の安全を確認します。
 □傘をさしたまま、ものを持ったまま乗ってはいけません。

緊急宣言解除後の教育活動について

5月に北海道に発出された緊急事態宣言が解除となりました。これを受けて桜木小学校では、制限していた教育活動について、徐々に出来ることを増やしていきたいと考えております。ただ、専門家からは、今後も再び感染が拡大する可能性も指摘されており、リスクと感染防止対策を検討しながら、慎重に活動の再開や実施を行ってまいります。

1. 引き続き今後も、ご家庭へご協力をお願いしたいこと

【登校前の検温、健康観察、健康調査シート記入】

☐発熱 ☐風邪症状 ☐家族に発熱や風邪症状

★家庭での休養や病院の受診等をお願いします

【学校への連絡と情報提供をお願いいたします】

①欠席・遅刻・早退についての連絡

②児童やご家族が次のような状況になった時

☐児童・ご家族が感染した
☐児童・ご家族が抗体・抗原・PCR検査を受けた
☐児童・ご家族が「濃厚接触者」に特定された
☐保健所や病院から指示を受けた

2. リスク管理や感染対策を講じ実施を開始していく活動

☐個人懇談（7／5～）
☐4年バス見学
☐クラブ・児童委員会
☐学校近隣の公園等での観察
☐外部からの人材を招聘しての授業（交通安全教室・食育等）
☐PTA会議（7/16の役員会から）

※座席や人の距離、向き、手洗いや消毒、活動場所の広さや人数等を考慮し、計画を立て活動を行います。

3. 今後も当面の間実施を控える方向で検討している活動

☐全校生徒を一堂に会しての活動（全校集会等）
☐多くの人数で複数学年を交流させる活動
☐飲食を伴う授業や活動（調理実習やレク）
☐外部からたくさんの人を集めての活動

子どもたちにも、自分で考え行動できる力を育てていきます



左は、桜木小学校・保健室前に掲示された「新型コロナウイルス」に関する掲示物です。

人は、分からないものの理解できないものに恐怖や不安を感じるもの。そしてその結果、適切な判断や行動をとることが難しくなるのです。これは、動物の世界でも言えることであり、動物は、分からないものを「恐怖」として感じると、そのものから逃げることで身を守ろうとします。

昨年から、世界中の感染症の研究者たちが、未知のウイルスについて研究を重ね、分からないことを分かろうと、智慧を集め努力を続けてきました。その結果、ワクチンや治療薬の開発が進み、どのように行動すべきかが少しずつ、見えてきているのです。人は、何かを知り、考えを深めていくことで、進化してきたのです。

子どもたちにも、自分で考え行動できる力を育てていきたいと考えています。「生きる力」の基礎は、何かを知り、考え、自ら行動していくことです。新型コロナウイルス感染防止のためには、必要な知識を持ち、考えることで、状況や場面に応じて自らの行動をつくっていくことが求められます。これは、緊急時や災害時においても大切なことです。桜木小学校では、学力づくりはもちろんです。が、健康や命を守るために必要な「考える力」についても、さまざまな場面で育成を図っていきたいと考え、実践を行っていきます。

ち え
智慧之輪



「知る」ことで見えてくる世界がある

題：「心ここにあらざれば視れども見えず」

桜木小学校では、休み時間などに、子どもたちが昆虫を観察している姿を目にします。写真は、2年生の児童が、木の枝に止まっているアゲハチョウを眺めているところです。昆虫は、卵→幼虫→さなぎ→成虫と変態します。そのため、成長が見て分かりやすい。だから、今、まさに成長しようとしている子どもたちにとっては、目に止まりやすい（好きな）もののなかも知れません。

昔の中国の言葉に「心ここにあらざれば視れども見えず」（心がしっかり整っていないと、見ているように見えていないものである）があります。人間は、よく見ているようでも、実際に見ているのは、存在しているもののごく一部であり、そしてそれは、自分の興味のある（自分が知っている）ものに偏っているというのです。では、見えていない未知の世界の部分までを視るためには、どうしたらよいのでしょうか。それは、見たいものばかりではなく、見るべきものを見る力を身に付けることと言えるでしょう。

そのために必要なことは何でしょうか。それは心を充実させること、つまり色々なことを知る、知識を持つことです。心、つまり頭の中に、何かを理解するための知識や思考の枠組みが豊かになると、今まで意識しなかったこと、目だけでは捉えられない、何かが見えてきます。例として子どもたちが眺めていた「蝶」について知識を深めてみましょう。蝶は、日本だけでなく、ギリシア神話や中国の故事、キリスト教や仏教の教えの中にも登場し、その形や生体の変化、羽をひらひらさせる動きから、不死や不滅、長寿、復活の象徴と見られています。そのことから、日本では、武士に好まれました。平清盛の家紋である『丸に揚羽蝶』は有名です。しかし、一方で死者の世界をイメージさせる不吉なものとして見られていた時代もあり、文献や和歌にほとんどあらわれない時もあったのです。子どもたちは蝶をどんなものとして見ているのでしょうか。そして将来、蝶について学びを深めていったとき、何か見えてくるのでしょうか。

右の写真は、私の家にある盆栽（ツツリ）です。盆栽は、思うような形に枝を整えるのではなく、将来その木がなるべき形（未来）を視て、枝にハサミを入れるのだと教わりました。さてそれでは、下に伸びている枝は、切り落とすべきか否か…。私はは、この木の未来が視えているでしょうか。よく視ることが大切なのは、蝶や木だけでなく人についても同じです。子どもたちの将来（なるべき姿）をしっかりと視て、必要なものを授けていくことが大切です。そのために、まず、教えるだけでなく私たち大人も、「視る力」を鍛えておくことが必要なのでしょう。